

2025年度 町田市立真光寺中学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

2025年3月31日

学校教育目標 真剣に学び自然や人を愛しくたくましく生きる生徒	学校経営の重点 (1)確かな学力の育成→「学び続ける力」を高める授業改革 (2)多様な学びの推進→コミュニティスクール事業や校内教育支援センターの充実
○目指す学校像……(1)信頼と誇りのある学校 (2)感動、感謝、やる気を維持する (3)明るく、元気なあいさつのあふれる学校 ○目指す児童・生徒像……(1)向上心を持ち、意欲的にまなぶ生徒 (2)人を思いやる心をもと、他と共同できる生徒 (3)社会性と高い規範意識をもつ生徒 ○目指す教師像……(1)協調と協働を根拠に置き、情熱と使命感に燃える教師 (2)わかる授業、魅力ある授業を追求する教師 (3)あきらめない生徒指導に 徹し、信頼される教師	重点目標の成果と課題 全教員が「学び続ける力」を高める授業改革」を目標に設定して取り組んだ。生徒が主体的に学ぶ力を育成するためにどのような授業改革ができるか、教科を超えて話し合い改善できた部分もあった。しかしもっと改善できる部分もあるため、来年度も引き続き授業改善に取り組む。また、校内教育支援センターの取組についても、全教職員が共通認識の上、推進していかなければいけないので、課題や取組についてスモールステップから取り組んでいく必要がある。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価	
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	日常の教育活動の様子を積極的に情報発信し、理解を深める。	学校ホームページを通じた情報提供を充実する。	4 毎日1記事以上アップ 3 2日に1記事以上アップ 2 3日に1記事以上アップ 1 週に1記事未満のアップ	3	B	4 保護者アンケート満足率100%以上 3 保護者アンケート満足率90%以上 2 保護者アンケート満足率80%以上 1 保護者アンケート満足率80%未満	86	A	・ホームページの更新や学校だより発行は、計画的な取組ができず、情報発信が遅れたり、滞りまったりすることがあった。学年便り、タイムリーに発行できたので、保護者の満足率が高かったと思われる。	・計画的に発信、発行ができるように時期や内容を考えた年間計画を立てる。効果的な情報の発信方法を確立する。	・情報発信については、今後もタイムリーに工夫して発信してほしい。	B	
			学校だよりや学年だよりを通じて、教育活動を発信する。	4 学校だよりは月1回、学年だよりは週1回発行 3 学校だよりは月1回、学年だよりは2週に1回発行 2 学校だよりは2ヶ月に1回、学年だよりは月1回発行 1 学校だよりは2ヶ月に1回、学年だよりは月1回未満発行	2.5	C	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率60%以上 1 保護者アンケート満足率60%未満	86	A			・保護者、地域の方がさらに学校に来ていただけるように広報活動を推進すると良いのではないかと。		
			「おやじの会」「茶道協会」「ソロボチミスト町田」との連携を図り、スポーツ交流会、伝統文化教室、キャリア教育の充実を地域と一緒に進めていく。	4 スポーツ交流会4回、茶道教室、キャリア教育がすべて実施できた 3 スポーツ交流会3回、茶道教室、キャリア教育が実施できた 2 スポーツ交流会2回、茶道教室ができた 1 スポーツ交流会1回を行った。	3.5	A	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率60%以上 1 保護者アンケート満足率60%未満	72.1	B	・地域の方の協力により、充実した教育活動ができた。				
			「校内教育センター」の充実を図り、不登校の解消と出現率を低くする。	4 不登校の出現0% 70%の不登校解消 3 不登校の出現50% 30%の不登校解消 2 不登校の出現70% 20%の不登校解消 1 不登校の出現70% 20%の不登校解消	3	B	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率60%以上 1 保護者アンケート満足率60%未満	68.9	C	・「校内教育センター(のびのびルーム)」の運営について手探りで進んでいる状況がある。	・校内の体制や生徒一人一人の状況に応じた対応ができるように実態の把握や関係諸機関との連携を図る。	・校内教育センター(のびのびルーム)の運営は大変だと思うが充実に向けて取り組んでいく必要がある。		
確かな学力の育成	子どもが主体的に学び、教師が導く授業改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現することで、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。	個別最適化を追求し、学力向上の推進を図る。	講演会や体験活動の機会を多く設定し、興味・関心をもつことで「やってみたい」「できた」の達成感、成就感のある学習活動を実施していく。	4 生徒授業アンケートの結果90%以上 3 生徒授業アンケートの結果80%以上 2 生徒授業アンケートの結果70%以上 1 生徒授業アンケートの結果70%未満	4	A	4 80%以上の生徒に定着 3 70%以上の生徒に定着 2 60%以上の生徒に定着 1 60%未満の生徒に定着	90	A	・今年度も様々な講演会や体験活動を行い、生徒アンケートの「総合的な学習の時間は自分のためになっている」の肯定的評価が90%であった。	・話を聞くだけでなく、参加、体験型の活動が本校生徒にとって効果があるので、達成感を覚える学習活動を増やす設定を行う。	・いろいろな体験活動を実施しているが、学力につながる感じが感じないか。先生と生徒と一緒に学んでいくということが感じられるといいのではないかと。		
			ICTを「映写道具」ではなく、「文房具」として活用し、学習障害がある生徒も意欲的に授業に取り組みめる魅力ある授業を展開する。	4 生徒授業アンケートの結果80%以上 3 生徒授業アンケートの結果80%以上 2 生徒授業アンケートの結果50%以上 1 生徒授業アンケートの結果50%未満	4	A	4 80%以上の生徒に定着 3 70%以上の生徒に定着 2 60%以上の生徒に定着 1 60%未満の生徒に定着	88.8	A	・生徒授業アンケートの「先生は、ICT機器を使って授業をしていますか?」で全学年、全教科の平均は70.7%であった。5教科においては、97.9%であった。日常的にICT機器を活用するようになってきている。	・ICT機器を効果的に活用し教科を超えてアドバイスできるような、組織的な授業改革を行う。			
			全教科でミニ校内研究授業を実施し、講師をから指導を受け、授業力向上に努める。	4 100%が実施 3 90%が実施 2 80%が実施 1 80%未満の実施	3	B	4 80%以上の生徒に定着 3 70%以上の生徒に定着 2 60%以上の生徒に定着 1 60%未満の生徒に定着	62.9	C	・生徒アンケートの「授業の後に」として知りたいたいと思う教科がある」の全学年の肯定的評価は、62.9%であった。学年によって10%程度の差がある。	・授業のユニバーサルデザインを進めて、安心して授業を受けられる体制をつくる。	・生徒の可能性を導くために教師が身につけるべきものは何かなど、研修と実践を深めることを期待する。		
			配慮を要する生徒の対応について、理解を深め、全生徒が安心して授業を受けることができる体制を整える。	4 生徒アンケートの結果90%以上 3 生徒アンケートの結果80%以上 2 生徒アンケートの結果70%以上 1 生徒アンケートの結果70%未満	2	C	4 保護者アンケート満足率60%以上 3 保護者アンケート満足率40%以上 2 保護者アンケート満足率30%以上 1 保護者アンケート満足率20%未満	68	C					
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にすること意識・意欲・態度を育てる。	自己肯定感を高めるために、行事、各種委員会・係活動、部活動での活躍の場を意図的に作っていく。	各種行事を充実させ、下級生が上級生から学ぶ、上級生が下級生の見本となる場を設定する。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	4	A	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率60%以上 1 保護者アンケート満足率60%未満	92.6	A	・行事の満足度は生徒、保護者ともに高かった。実行委員会を中心に運営を行い、3年生のリーダーシップを下級生が直接肌で感じることであった。係活動を通して自己有用感も高まった。	・生徒数、学級数が減っていく中で、縦のつながりも充実させ、本校の良さが出て、生徒がより達成感を感じることができる行事を行う。	・縦割りの活動を増やし、小規模校ならではの取組を行うといいのではないかと。		
			コミュニケーション力を高め、お互いを認め合える心の成長を育てる。	「真中の命の日」に講師から「命の大切さ」を教えていただき、自分と他者とのかわりをお互いに、かけがえのない存在、価値ある存在としての気持ち育てる。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3.5	A	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率60%以上 1 保護者アンケート満足率60%未満	70.5	B	・1年間を通して、「自分を大切に、周囲の人を大切に」という指導を教育活動全般で行った。	・保護者の方に本校の教育活動について知っていただくために講演会や学校公開日だけでなく、来校、参観していただけるように広報活動を行う。	・特別支援教育校内委員会の取組を認知してもらえようとするとういのではないかと。	
			特別支援教育校内委員会を充実させ、生徒の情報を共有を密に行い、全校生徒が安心して学校生活をおくることができる。	4 生徒アンケートの結果90%以上 3 生徒アンケートの結果80%以上 2 生徒アンケートの結果70%以上 1 生徒アンケートの結果70%未満	2	C	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率60%以上 1 保護者アンケート満足率60%未満	68.9	C					
				4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3	B	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率60%以上 1 保護者アンケート満足率60%未満	66.4	C					
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	真中の基本「あいさつ・清潔・元気」を具現化していく。	「全員給食」を活用して、食育の推進を図る。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	2	C	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率60%以上 1 保護者アンケート満足率60%未満	57.4	C	・給食での食育活動は、給食時の献立の説明放送のみとなってしまう。給食の内容についても量や食べる時間など、生徒や保護者からのご意見がある。	・給食センターの栄養士、調理師や企業、外部機関と連携した食育の取組を行う。	・大人になってからも必要なマナーが身につくように、あいさつやきまりを守るなど卒業後も自信を持って行動できる生徒の育成が必要。		
			時間、あいさつ、言葉づかいなど、基本的な生活習慣の確立の指導の充実。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3	B	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率60%以上 1 保護者アンケート満足率60%未満	62.3	C	・あいさつなど生活習慣について声が出ない、自分からあいさつすることができない等確立していない状況がある。	・生徒会や委員会の取組など生徒が自ら基本的な生活習慣やルールについて考え、改善していく姿勢を養う。			
			災害発生時に対応できる実践的な避難訓練を実施し、防災意識を高める。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	4	A	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率60%以上 1 保護者アンケート満足率60%未満	86.9	A		・より実践的な訓練を行い、更に防災意識を高める。			
			体罰、暴言、不適切な指導を一掃する。	4 100%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	3	B	4 保護者アンケート満足率80%以上 3 保護者アンケート満足率70%以上 2 保護者アンケート満足率60%以上 1 保護者アンケート満足率60%未満	79.5	B	・生徒に対する言葉が乱暴であったり不適切な表現であったりする場面があり、生徒、保護者からご指摘を受けた。	・人権感覚を磨くために、定期的に研修を行い、暴言や不適切な指導を行わない職場を醸成する。			
その他														

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)	成果指標評価基準	学校関係者評価の評価基準
取組指標平均 3.5以上 ⇒ 評価A 取組指標平均 3以上3.5未満 ⇒ 評価B 取組指標平均 2以上3未満 ⇒ 評価C 取組指標平均 2未満 ⇒ 評価D	成果指標平均 80%以上⇒評価A 成果指標平均 70%以上⇒評価B 成果指標平均 55%以上⇒評価C 成果指標平均 55%未満⇒評価D	A⇒ 取組・成果ともに十分評価できる B⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい C⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要 D⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善
※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。		
※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。		